

## 第 3 3 6 回

# 日 本 泌 尿 器 科 学 会 新 潟 地 方 会

## 《 プ ロ グ ラ ム 》

日 時 : 平成 1 7 年 1 2 月 1 7 日 ( 土 ) 午後 3 時  
会 場 : 新潟グランドホテル 5 階 『 常盤の間 』  
新潟市上大川前通 3 ノ町 025-228-6111

次回 第 3 3 7 回新潟地方会予告

日時 : 平成 1 7 年 3 月 1 1 日 ( 土 ) 午後 3 時

会場 : 未定

演題申込期限 : 平成 1 7 年 2 月 1 6 日 ( 水 )

- ※ すべて PC のみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7 分。討論 3 分

951-8510 新潟市旭町通 1 の 7 5 7

新潟大学医学部泌尿器科学教室内

日本泌尿器科学会新潟地方会

TEL : 025 ( 227 ) 2289 / FAX : 025 ( 227 ) 0784

会長 高 橋 公 太

15 : 30 ~ 16 : 20

座長 谷川 俊貴

## 1. 腎移植後に発生した膀胱癌にて尿路全摘を行った一例

新潟大学腎泌尿器病態学分野

村山慎一郎、中川由紀、渡辺竜助、齋藤和英、谷川俊貴、西山勉、高橋公太

症例は、30歳女性。平成11年3月に母親をdonorとして生体腎移植を受けた。平成17年5月、妊娠中に血尿があり、精査にて膀胱腫瘍が認められた。TUR-Btを施行されたが残存腫瘍を認めた。病理所見はUC、G2>G3であった。免疫抑制療法中・G3 componentに加え、癌が膀胱頂部移植尿管口付近より発生していたことより全尿路全摘除術の方針となり、妊娠35週に帝王切開にて出産後、8月3日に固有・移植全尿路全摘除術を施行された。移植後膀胱に発生する腫瘍は稀であり、一般的に予後不良とされている。

## 2. 腎癌の周囲浸潤を疑われた悪性リンパ腫の1例

長岡赤十字病院 泌尿器科

石井達矢 瀧澤逸大 米山健志 森下英夫

症例 44歳女性 2005年4月頃より右上腹部の違和感を自覚。近医にて、右腎腫瘍を指摘され、5月17日当科紹介。CT、MRI上、右腎癌肝浸潤、傍大動脈リンパ節転移の診断にて、肝合併切除の方向で、5月23日、3DCT施行。6日間で肝浸潤および傍大動脈転移巣の増大、十二指腸への浸潤も疑われ、手術適応なしと判断し、塞栓術の方向となる。傍大動脈のリンパ節転移が腎癌には非典型的であり、5月31日エコーガイド下経皮的右腎腫瘍針生検施行、迅速病理の結果、悪性リンパ腫と診断。塞栓術中止し、6月2日血液内科転科し化学療法(CHOP)開始。現在も治療継続中であるが、腫瘍の著明な縮小を認め、現在も化学療法中である。

### 3. 後腹膜腫瘍の分類

県立がんセンター新潟病院 泌尿器科

原 昇，斉藤俊弘，北村康男，小松原秀一

後腹膜腫瘍はその定義自体があいまいであり、分類も統一した見解を得ない。がんセンター新潟病院にて臨床的に後腹膜腫瘍と診断された16症例を検討した。組織診断は脂肪肉腫8例、平滑筋肉腫3例、孤立性線維性腫瘍(SFT)2例、畸形腫1例、悪性リンパ腫(NHL)2例であった。今回の画像と病理学的検討から、SFTは血管外膜・周囲、脂肪肉腫と平滑筋肉腫は深軟部組織由来と考えられた。我々は後腹膜における間葉系腫瘍はPerivascular tumorとDeep soft tissue tumorに分類できると考えた。前者は組織学的悪性度が高くても予後は良好、後者は切除可能でも不良であった。

### 4. 食道癌腎転移の2例

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野<sup>1)</sup>、厚生連村上総合病院泌尿器科<sup>2)</sup>、

厚生連佐渡総合病院泌尿器科<sup>3)</sup>、厚生連村上総合病院外科<sup>4)</sup>

新井啓<sup>1)</sup>、小林和博<sup>2)</sup>、小松集一<sup>3)</sup>、水澤隆樹<sup>3)</sup>、林達彦<sup>4)</sup>、高橋公太<sup>3)</sup>

腎は心拍出量の20～25%の供給を受けており、癌の転移を受けやすい臓器である。実際転移性腎腫瘍は剖検例で全悪性腫瘍の1.8～12.6%に見られると言われている。しかし生前臨床的に診断、治療されることは極めて希である。今回われわれは食道癌を原発とする転移性腎腫瘍の2例を経験した。転移性腎腫瘍への対処法を、文献的考察を加えて検討した。

### 5. Small BPH・膀胱頸部硬化症に対するTURP・TUIBN(膀胱頸部切開術)

の検討

刈羽郡総合病院 泌尿器科 羽入 修吾

2000年1月から5年間にTURP・TUIBNを439例に施行。切除量15g以下は157例。NBや

前立腺癌がある 91 例を除いた 66 例で手術前後の最大尿流率 MFR と残尿量を検討。5g 未満群：9 例、10g 未満群：22 例、15g 以下群：35 例。どの群でも MFR と残尿量は TUR により改善。術後 MFR は 5g 未満群で  $13\pm 5\text{ml/sec}$  と低かった。重症度はどの群でも症例の約 9 割で術後改善し、全症例の半数が正常化した。中葉肥大のある 10 例は全例が術後に正常化した。

## 教育セミナー

16:20～16:40

座長 西山 勉

## 腎細胞癌における BCL-2 の発現

新潟大学腎泌尿器病態学分野 糸井俊之

腎細胞癌症例検体で Bcl-2 蛋白の発現を検出し、その役割について検討した。

Bcl-2 蛋白の発現は 101 例中 72 例 (71.3%) に認められた。Bcl-2 陽性例は明らかに予後良好であり ( $p=0.0014$ )、低い Grade また stage を示した ( $p=0.0020$ 、 $p=0.0301$ )。

Bcl-2 蛋白の発現は予後を予測する新しい因子として有用であり、今後、各種治療法の適切な選択に寄与するものと考えられた。

[ 休 憩 16:40～17:20 ]

## サテライトセミナー

日 時：平成17年12月17日(土)

17時20分～18時30分

会 場：新潟グランドホテル 5階『常盤の間』

17:20～17:30

製品紹介                      武田薬品工業(株)      学術担当 岩井 邦夫

17:30～18:30

座長 新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野

教授 高橋 公太 先生

## 「ヒト遺伝性腎癌の分類とその特徴について」

講師 東京女子医科大学腎臓病センター泌尿器科

教授 東間 紘先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会

武田薬品工業株式会社

サテライトセミナー終了後、

3階「悠久の間」にて祝賀会及び合同懇親会となります。